

## 6 若年男性の男性更年期症状に対して 補中益気湯が効果的であった一例

順天堂大学医学部附属順天堂医院 泌尿器科

白川 智也

### 【目的】

当院泌尿器科メンズヘルス外来では、LOH症候群・男性更年期障害・勃起障害・排尿障害・男性不妊といった男性特有の疾患・病態に対して、専門的治療を行っている。近年、LOH症候群や男性更年期障害の認知度が高まる中で、専門外来を受診する男性患者は徐々に増えつつある。症例によって患者背景や症状が様々であり、あらゆる要素を鑑みて治療方針を決定する必要があることは言うまでもない。今回、全身倦怠感を主訴に当科メンズヘルス外来を受診された若年男性に対して補中益気湯単剤での治療が効果的であったことから、文献的考察を交えて報告する。

### 【症例】

初診時年齢32歳。174cm、60kg、BMI 19.8。既往歴は逆流性食道炎。常用薬はネキシウムのみ。2021年5月頃から倦怠感を自覚し、症状の改善を認めないことから2022年1月に当院総合診療科を受診した。精査の採血で総テストステロン値が1.03 ng/mlと低値を認め、4月に当科メンズヘルス外来へ紹介となった。当科採血でも、総テストステロン値1.76 ng/ml、遊離テストステロン値4.2 pg/mlと低値であり、AMSスコアも47点と中等症であった。若年かつ未婚でもあり、男性ホルモン補充療法の副作用である造精機能低下・精巣萎縮が危惧されたため、漢方薬内服による治療開始の方針となった。

### 【結果】

診察からは虚証と考えられ、補中益気湯による治療を開始した。内服開始1か月後の外来で倦怠感の改善の訴えがあったため、処方継続とした。同年9月の採血では、総テストステロン値が3.92 ng/ml、遊離テストステロン値が8.2 pg/mlまで上昇を認めた。また、11月に行ったAMSスコアも30点まで改善した。自覚症状、男性ホルモン値、AMSスコアのいずれにおいても治療効果が得られた。

### 【結語】

今回、全身倦怠感を主訴とする若年男性に対して、補中益気湯が著効した症例を経験した。メンズヘルス外来を受診する多くの症例はLOH症候群・男性更年期障害の診断となり、ほとんどの症例で男性ホルモン補充療法を行っている。今回のように、若年かつ未婚で、今後挙児希望のある男性に対しては内服治療がベースとなるが、その中でも特に虚弱体質で倦怠感を主訴とする症例に対しては、補中益気湯による治療は有用であると考えられる。